留学を終えて

長良高等学校　中村　優斗（ドイツ）

僕は、約一年間、留学することを選んでとても良かったと思っています。ドイツのベルリンでの生活は一生忘れられないような刺激的なものとなりました。僕の留学生活では、本当にたくさんのことが起きました。また、自分は日本が好きであるということを実感し、ドイツにいながら別の側面から日本を見ることができました。八ヵ月程たってからホストチェンジもしましたが、そこからまた別の生活が始まりました。全てを書くことはできないので、いくつかのポイントと出来事を取り上げて、僕の留学生活についてレポートを書こうと思います。

自分がドイツで一番成長できたと思うこと、留学して良かったと思うことは、主に人間関係についてです。自分は友達を作ることが苦手でドイツに着いたばかりは、まず友達ができるかどうかがすごく不安でした。だから、一カ月目、たくさん話しかけてくれるクラスメートたちがいてとてもうれしかったことを覚えています。その時自分はあまりドイツ語が喋れず、自分の思っていることをしっかり口に出して言うのができないこともありましたが、自信がない中で支えてくれる人もいました。一年間不安が多かった中で支えてくれる人たちによって自分の留学生活は成功しました。もちろん自分がたくさん頑張ってきた分もありますが、周りの人がいたから頑張れたと思います。ホストファミリーをチェンジした時、僕はクラスメートの家へと移りました。彼は家でも学校でもよく助けてくれました。お互いに話す時間もたくさんあり、話題は多岐に渡り異文化交流ができたと思います。元々、彼とは学校でもよく喋る仲で、家が近いこともあって気にかけてくれていた人でした。彼の支えが一番大きかったと感じます。日本に帰ってからも彼と彼の家族とは連絡を取り合っています。また、他にもクラスの中で仲が良い友達もできました。僕のクラスには韓国から来ている子もいて、よくその子の家で遊んだり、クラスメート４人ほどと僕のホストブラザー兼友達の子も誘ってご飯を作ったりして過ごしました。その子とは同じアジアの子として気が合うことも多く、ドイツについてどう思うかなど話し合うことが多く、自分のドイツに対する新たな考えも生まれる良い機会となりました。

また、他の国からドイツに、同じ留学団体から来ている留学生も多くいました。周りには、主に南米から来ている留学生が多かったのですが、彼らのドイツに対する考え方は、アジアの人がドイツに対して持つ考え方とは違っていて面白いと思いました。例えば、日本人は普段、挨拶をするときに特に何もしないし、何か特別なことがあっても、口に出すようなことをしません。そんな私たちから、挨拶で握手をしたり、ハグをしたりするドイツ人をみると、すごく温かい人たちだと感じます。しかし、南米の人達から見ると、ドイツ人は冷たいと言います。南米の音楽を聞いてもわかるように、彼らはいつもテンションが高く、一度話し出すと止まりませんし、常に笑顔です。あのスペイン語が彼らに与える活発さはすごいと毎回感じます。対してドイツの人は、クラスメートなどの知り合いには優しいですが、彼らの家族間の言い合いはものすごいです。南米から来ている子

は、そこがドイツの人は冷たい、もっと家族には優しくするべきだと言っていました。自分がただの日本から来た留学生ならば思わなかったようなことも、他の国から来ている人から見る視点では違って見えるのだということにも気づきました。他の国から留学に来ている人たちとは、年に数回あった留学機関主催の会とは別に個人的に会うことも数回あり、いろんなところで交友関係ができて良かったと思います。今まで、日本に居たときは、家族との時間があまりないこともあって、たくさん話すことはなかったし、友達とも積極的に話すこと、どこかへ出かけたり、ご飯を作ったりすることもなかったので、ドイツ語を使って友達を作って、違う文化に触れながら楽しむことができたのは、自分にとってとても良いものになったと思います。

二つ目に、教育や政治について思ったことを書こうと思います。ドイツの人は政治について話すことが好きで、よく議論しあっている場を見ます。政治について興味ないという人でさえ、ある程度は語れて、国民全員が、世の中が今どうなっているのかを知っているのだと感じました。僕自身、日本の首相についてどう思うかなどをよく質問されました。僕は、ニュースは見るけれど、その事柄について自分の意見を持つということがなかったので、最初のころは、そのような質問に答えることはできませんでした。その時から自分でたくさんのことを調べるようになり、授業で時々取り扱われるような話題にも、自分の考えを持つようになり、ドイツと日本を比べながら授業を受けました。ドイツと日本は戦争時同盟を結んでいましたが、かつては日本の多くの人も政治や世の中についてもっと興味があったと聞きます。しかし今日のように変わったのは、敗戦して、アメリカが日本に来てからだと考えます。彼らが日本にした政策により、同じ敗戦国であるドイツと日本はこんなにも違うのだと感じました。また、授業での政治に関することが日本では少ないように感じます。学校の先生は授業で、政治がどのような仕組みになっているのかは教えますが、僕は授業で、国会で各党が主にどのようなことを主張しているのかは聞いたことがありません。先生の考えをそのような場で発言してはいけないということかもしれませんが、生徒に対し、あくまで先生は中立の立場を取り、国会で各党が何を主張しているのかを資料などを見せながら教え、生徒同士で意見交流する時間を少しは取り入れてもいいのではないかと思いました。また、哲学の授業もあればいいと感じました。日本では、人々が自分から何かについて考えるようなことは少ないと思います。考えるということが習慣的になっていないこともあって、政治に対する自分の考えを持てていないことにつながっているのではないかと感じました。また、授業に対する姿勢という観点では、彼らはよく手を挙げて質問や発言をします。グループトーキングなどの時間もたくさんあり、日本の、いろんな問題を解けるようになるというよりは、思考力を高め、高レベルの知識を持つようするということに重点を置いているようでした。また、各教科でプレゼンテーションを課すこともあり、グループを作ってみんなで放課後に集まったり、ネットで課題を共有して取り組んだりして、授業で発表していました。日本では授業の一環として習いますが、彼らは今の社会を知り、プレゼンできる力が必要だと考え、いろんな教科がプレゼンテーションを日常的に取り入れているのだと思います。このような授業について、個人的にはすごくいいと思いました。

このような素晴らしい留学体験ができたのも、周りの人の助けがあったからです。日本の家族、ホストファミリィーの方々、留学機関関係者の皆様等、本当にたくさんの方に助けられました。そんな、たくさん感謝した留学生活でした。